幼兒教育　第十九卷第四號　大正八年四月一日發行

新入園兒の家庭の方々へ

＝三月十五日に開かれし新入園兒の母の會の席上に於ける講話の一節＝

東京女子高師附屬幼稚園主事　倉橋惣三

○幼稚園は家庭の離坐敷

幼稚園と申しますと何か特別な所の樣に考へておられる方があるかもしれませんが、私共の立場から申しますれば幼稚園とは皆樣の御家庭がこゝ迄のびて來たもので、家庭の離座敷とも、庭つゞきの家とも考へられるので、決して家庭をはなれて特別に幼稚園と云ふ教育機關があるのではありません。私共の一番氣をつけねばならない事は幼稚園に出すと云ふ事のために子供に特別更たまつた氣持を與へない樣にと云ふ事であります。朝、子供を幼稚園に送り出す時に、母親が子供に「太郎さん、あなたは今迄自宅に居た時には女中や書生と遊んで居たからよいが、今日から、幼稚園に行くのです、幼稚園の生徒になつたのですから、すべからく、善い事をしなければならない。充分決心覺悟をして行かねばならない」と云ひ聞かせる樣なことがもしあるとすれば――そう云ふ方は恐らくありますまいが――それは實に幼稚園を何か特別な所、他所行きの場所と取扱ふものであります。

とかく今の子供は神經質で困ります。私共の希望する子供は、「こゝはお座敷」「こゝは自宅」「こゝは庭」と、はつきり區別をつけて一々行儀作法に氣をつけたり、或は「今はお友達と一所であるから」とか「先生のまへである」とか云つて一々之を意識して態度をあらためる樣なものではありません。實に子供は其の居る場所などには無頓着で、天上天下これ我が住む所として到る所に自己を充分發揮するものでありたい。人間が子供の時代を永くもつて居る所以は、實に此處にあるので、この時期を最もよく用ふる事、卽ち最も有りの儘に生活する樣に仕向ける事が、我々幼兒期をあづかるものゝ大なる責任と思ひます。この、子供があまり場所をわきまへすぎて、神經質であると云ふ事は敎育について考へのある謂ゆる智識階級の家庭に育つた子供が、とかく陷りやすい點で、私はこの小さく出來上つた大人の樣な子供を見る度に、こんな幼時からこの樣では此の子の將來は實に心細いとまで思ふのであります。しかしこの點に於ては家庭よりも幼稚園の方にも余程責任があります。「家庭では鼻をたらしてゐるが幼稚園に來たらそれではいけない」とか「家庭では甘つたれてゐてもよいが幼稚園へ來たらチャンとしなければいけない」とか、つひ云ひたくなる。さもなくてさへ建物から云つても生活狀態から云つても、とかく學校氣分を與へやすい幼稚園が、環境に對して子供を無頓着である樣にとねがふのは、餘程むづかしい事でありませう。しかし子供に不似合な心配をさせ、苦勞性にすると云ふ事は、實に遺憾な殘念な事で、何處までもこの點はお互に協力して氣をつけたいと思ひます。英語で「お氣樂に」と云ふ場合に「お宅にいらつしやる通りに」と云ふ言語を用ふるそうですが、實に幼稚園は「お宅にいらつしやるそのまゝ」でありたいのです。

○敎育の出發點は眞實から

子供が他所行きの氣分になつてゐては、とても本當の教育は出來ません。我々は微力なものですから一生懸命力のかぎりにしても大した事は出來ませんのに、もし相手が有りのまゝを出し、また我々の云ふ事を有りの儘に受取つてくれる事がなければどうする事も出來ますまい。厭な事は厭、好きな事は好き、これはしたい、これはやめたいと思ひのまゝに子供がふるまつてこそ幼稚園の教育は始められるのです。鎧甲で身をかためて「さあ私の肌に觸つてくれ」と云つても仕方のない樣に子供がその心を閉ぢて少しもありのまゝを出さなければ微力な我々はとても心の底まで透徹した教育をする事は出來ません。小學校又は以上の學校の年齡になれば兎も角、少くとも幼稚園では實に家庭の通りに振舞ふ樣にしたい、實に時と所を超越してくらす幼兒期に於て學校と家庭とを區別して生活するのは之れこそ虛僞の生活である。虛僞の上には何物を築く事――初める事――は出來ません、私共何も出來ずともせめて眞實から出發して教育したいと希望致します。

○家庭に在る母も心は幼稚園に

扨、幼稚園はどんな事をする所か、これを充分御承知を願ひたい。と申しますのはこゝに二つの理由があります。第一は子供を幼稚園に送り出した後も母親は最愛の自分の子は今頃どんな事をしてゐるだろうかとたえず考へてゐて頂きたいのであります。これが幼稚園の先生にとつても、ごく大切な事でどれ位これが私共を眞劍にし働甲斐ある樣にさせるかわかりません。もとより幼稚園によつては救濟の意味で母親の勞働の足手まとひになるから之をあづかると云ふ性質のものもありますが、皆樣の樣な御家庭の場合はそれとは全然違ひます。玩具にしても世話する人にしても幼稚園にあるよりは寧ろ充分ある事と信じます。こゝから

出發いたしますからこの幼稚園は家庭の代用をして居るとは思ひません。預けてしまつたからもうこれでよいとは呉々もお思ひにならぬ樣に願ひたい。一體子供の教育と云ふ事はたゞ其子が眼の前に來た時に斯う云つてきかせたから、斯う取扱つたからそれで教育が出來たと云ふ樣なものではありません。教育は如何に始終其子の事を考へて居るか否かに歸着するのであります。即ち家庭の人——母親——は身ははなれてゐても心に於ては幼稚園にある其子と一緒に生活してゐて頂きたい。「いつの間にか突然歸つて來た」「おやヒョッコリ歸つて來た」と云ふのでなく「もう歸る時分」と待ち受ける。即ち朝別れて午後歸る、その間が同じ續いた一日でありたい。「何時から何時までは幼稚園」「何時と何時とは家庭」と一日を二回に使ひわけて區別する事は實に恐ろしき事、有害な事であります。それから、今一つの理由は子供が幼稚園で何んな生活をして居るかをよく知つて居て頂いて、それをお子さんにお聞き下さらない樣にしたいのです。幼稚園でする事を知つて頂きたいと云へば或はかう考へる方があるかもしれません、即ち子供が幼稚園から歸ると「幼稚園で今日は何をしましたか。これからお淡ひをして御覽なさい」と云つて幼稚園の報告、復習をさせれば、よくわかるではないかと。しかしこれは大々禁物です。子供が幼稚園にある間母親はたえず園の事を考へてゐて頂きたいと申しましたが、子供が歸つたらバッタリ忘れて頂きたいのです。歸るとすぐ「今日は坊やは何をしました。」「叱られはしなかつたか」「喧嘩をしなかつたか」などきくと其度に子供は幼稚園と云ふものをはつきり心に浮べて考へる。幼稚園といふものが子供の心に意識的になる事は前から申します樣に實に望ましくない事であります。何だか知らないが面白い所へブラリと行つてたゞ面白く遊んだ。其の中にまた外の樂しい所へブラリと歸つて來た。愉快から愉快にう

つつて行くと云ふ樣でありたいのです。幼稚園に來て居ながらそれを意識にのぼらせないでたゞ樂しく遊ぶと云ふ樣でありたいのです。それには大體幼稚園はどんな事をする所かと見當をつけて、一々子に聞かずともよく分つて居るに樣して頂きたいのです。

○我が幼稚園の一日

先づ朝子供が幼稚園に來る。その時刻は季節によつて違ひますが四月からは九時始りとなつて居ります。けれども其時間から例へば五分おくれたと云つて昔の話にある樣に、線香と茶碗を持つて立たされると云ふ程嚴密に考へては居りません。理想としては幼稚園は時計さへもない國でありたいので、九時ときめてもそれが大體の標準になつてゐるに過ぎません。卽ち幼稚園が初まると云ふのは朝子供が受持の先生に個人的に出會つて「お早うございます」と云つたその時から初まるので八時五十五分に來た子は其時、九時五分に來た子は其時が始まる時間です。小學校ならば九時始業と云へばその時に鐘が鳴つて一齊に室に入ると云ふ事になりますが、こゝの幼稚園では別に鐘をならしません。九時始りと云つて九時に何か仕事が始まるのでなく、其頃に先生が子供を受取る卽ち引受（レセプション）の時を指すのであります。扨子供を受取つてからの一日はどうかと云へば、此處では時間割は毎日各々の先生がそれ〴〵につくります。決してある規則にあてはめてその型にはめて行きません。其處でたゞ外部からこれを見ると、一向何だかきまりのない樣ですが、各々の先生は實に深く考へて其一日〳〵を最も面白く子供を生活させるために苦心するのです。それ故皆樣—（家庭の人）—がたとひ子供さんにお聞きになつても、「何だかした、しかし要するに面白かつた」としか答へられますまい。子供を知的にどれだけ悧巧にしやうかと云ふ事よりも、如何にすれば子供一人一人

が充分にその個人性を發揮して眞に一日を本眞劍に生活し得らるゝかと云ふ事に我々は骨折るのです。繪をかくにしても、歌を歌ふにしてもお話をするにしても之を教授するのではありません。繪により歌により話によつて其の時、その時を子供と〻もに生活するのです。山のまわりを馳けてゐる子でも砂場で遊んでゐる子でも、皆之によつて教育はして居ります。どうか幼稚園は知識を授ける所とはお考へ下さらぬ樣に願ます。

○幼稚園は撰ばれたる友達の社會

元來、幼稚園は子供同志がお互に教育する場所で先生はたゞ此子供の群を世話する役目です。一番よい幼稚園と云ふのは大人が手出しする事の一番少ない幼稚園です。入園の當時こそ必要に應じて先生は子供を背負ふ事も抱く事もありませう。しかしこれは本意ではなくて、子供が幼稚園の生活に馴れて來れば、大人は思ひ切つて手放したいので、何處迄も子供同士の間を尊重したいのです。もし之を極端に定義すれば「幼稚園とは撰ばれたる友達の社會なり」と云へませう。そこで一方に出來るだけ大人が細かく世話をやかない樣に、所謂無駄親切をせぬ樣に努めると云ふ事とともに、また子供同士が幼稚園に於てお互に充分の影響をしあふ樣にするのです。

自分本位で自分の子供を悧巧にしたいばかりにもし幼稚園に子供をよこすとすれば、それは實に間違ひです。お互は選ばれたる子供の社會の一人で、重大關係を他の子供さん等に及ぼして居るものであります。そこをよくお考へ下さつて、御自分のお子さんの爲に、又他のお子さんの爲にと、充分細い御注意が願ひ度いのであります。

扨て斯ういふ譯ですから、幼稚園の効果を充分におさめるか否かはこれは子供を幼稚園に送る其家庭の人の熱心と否とに一番關係があると思ひま

す。我々微力なものは何も差上げ得ないのですが皆様の熱心によりこの微力なものの中からでも充分お取りになるものがあろうとは思ひます。熱心と云つてたゞ理論上でなく、具體的に云へば子供を幼稚園によこす時に母親が如何なる用意をもつてよこすか。例へば此處に運動のよく出來る樣に袖もみぢかい、靴もかるい甲斐〳〵しい裝ひで來る花子さんと、ゾロ〳〵引き摺る樣な袖の着物で重い草履をはいて來る春子さんとあれば、前者は明らかにあの幼稚園の廣い庭を思ふまゝ馳けまはる樣に、大勢の友達を相手に思ふ存分遊ぶ樣にと親が心がけて居られるので、卽ち出來るだけ幼稚園生活の効果をおさめたいと云ふ熱心が實現されて居る譯です。後者は之をして極端に評すれば「何、自宅(うち)の子はたゞ幼稚園のあの庭の隅の柱にボンヤリ立つてゐればよい。馳れと云はれたら、こんな草履ですものと云ひ、友達にさそはれてもこの長い袖を引きずるからとことはればよい」と親が思つて居られる。卽ち幼稚園から何の効果も得たくないのだと云ふ樣にしか思はれますまい。例へば手拭、辨當などに必ずお名前をつけて下さいと幼稚園の方からお願ひするとしますと、これは小さな事ではあるけれども、もし幼稚園生活を眞に理解した家庭ならば、かゝる點まで充分氣をつけて下さるでせう、幼稚園が一つの撰ばれたる友達の社會である以上、その効果を充分ならしむるためには各兒の家庭がその子の幼兒期生活を最ものび〳〵と送らせるために熱心にたえず考へられる事が大切であります。其熱心に我々微力なるものも勵まされて最善を盡くすに至る樣、卽ち家庭の方から始終働きかけて來らるゝ事を希望する次第であります。(文責記者)